



第 46 号

発行所

〒157-0066

東京都世田谷区成城 1-13-1

武蔵工業大学附属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 阿部 俊 夫

編集責任者 清 水 茂



## 母校での講演報告 『創造力の源は想像力から』

同窓会会長 阿部 俊夫(十四期)

母校より中学三年生を対象に職業研修の一環として機械設計の実務について講演依頼があり、七月十二日に『機械設計の楽しさ』という演題で一時間三十分の講演を行いました。以下、講演内容を報告いたします。

### 機械設計の楽しさ

#### 一 設計業務で大企業と小企業の違い

一般に機械メーカーが大企業では家電、自動車メーカーに代表される

ように何種類かの標準ラインナップを持ち、大量生産の中で価格、性能、デザイン等を競っています。この中で設計の担当者は分担された業務を行います。組織を円滑に運営するため他の業務への干渉等はタブーとされています。一方、小企業は資金、人数に制限があり、大量生産ではなく企業独自の製品を担当者がいくつもの業務をこなして対応しています。大企業、小企業には一長一短がありますが、私は学生時代のアルバイト

の中でこの違いを理解し、小企業の多様性を選択し、振動機械という特殊技術を持った会社へ就職し、今日に至っています。

#### 二 設計業務に求められる要素

設計業務では『想像できる能力』『創造する力』が求められます。言葉で話してしまうと日本語では『創造』と『想像』は区別

しにくいので、私は創造をCREATE(クリエイト)、想像をIMAGE(イメージ)と表現しています。

『イメージ』できる能力』とは作ろうとする目標を頭の中で構成することです。CAD等の設計支援ソフトはありますが、これは道具であり道具を使いこなす能力がイメージ力です。無から有を作っていく。どちらかというと作家、芸術家に近いような能力を求められています。

『クリエイイトする力』とはイメージした内容を具体化する能力です。既存の技術を利用するだけでは発展はありません。常にその先を目指し、新技術の開発、素材や利用する機器の最新情報の入手を求められます。専門知識は勿論必要ですが、一つの技術だけでは製品は出来ません。金属製品であれ

### 本年度の総会・懇親会は

日時 2007年11月16日<金> (「柏」45号にてお知らせした11月9日(金)は変更されました。お詫び申し上げます。)

午後7時より第32回総会 午後7時30分より懇親会

母校では本年6月30日に新校舎落成披露記念式典が開催され、新たな気持ちで教員の方、生徒、ご父兄とも新6カ年一貫体制構想を掲げてスタートをきりました。

私たち同窓生も母校にあやかり厳しいご時世ですが、お互い親交を深めたいと思います。

是非のご参加をお待ち申し上げます。スケジュール表に今すぐメモして下さい。

会場 渋谷・エクセルホテル東急<渋谷マークシティ内>  
6Fプラネッツルーム TEL 03-5457-0109

会費 5,000円(食べ・飲み放題)

(注意) 会場はエクセルホテル東急へと第26回総会より変更となりましたのでお間違えのない様に！是非、同級生や先輩、後輩にTEL連絡して誘い合わせてご一緒にどうぞ。

ば機械加工(切削、曲げ、溶接等)表面処理、動力伝達、安全性等の技術の連携が必要です。ここでも『イメージできる能力』があれば新しい組み合わせで新規加工技術を開発できる可能性もあります。

### 三 これからの人が求められる能力

在学中の学生は先生が答えを覚えてくれます。この答えを覚えておけば試験では良い点数が取れるはずですが、しかし、社会人は答えを覚えてくれる人はいません。且つ、正解は一つだけとは限りません。その正解に「蓄えてきた知恵」と「膨らみ」を持たせることが芸術とも一致するところですが、与えられた問題に対して自分で答えを探すものなのです。ここでもイメージできる力とクリエイトする力が必要になります。今のサラリーマンには年功序列はなくなりまして、力の無い人はどんどん振るい落されます。今のそしてこれからの勉強はこれらの力を養うための基礎学力を作っている状況です。基礎の上に自分の考えをしっかり持つことが重要です。

### 「講演会を聞いて」

## 生徒さん達の感想

#### ▼「イメージ」する仕事

W・S

阿部さんは自らの設計の仕事が作家や芸術家と同じ「そうぞう」する仕事だと言っていた。最初は意味がよくわからなかったが、阿部さんの書いた設計図をみて少しわかった気がした。パッと見ただけでは何なのかわからないものだけに確かに阿部さんの頭の中でそれは動いている。まさに「そうぞう」する仕事なんだと思った。自分もよく文章を「そうぞう」するので訓練をつんでクリエイトする力を身につけたいと思う。

#### ▼若い間に創造力を養う必要がある

Y・T

今日、阿部さんの話を聞いて、今の世の中では昔と違い、年齢よりも実力が重視されるようになってきている事が分かった。また、実力

とは、想像力と創造力の事を示す事も分かった。その力を養うためには、若い間に、日常的なことを想像することが必要ということが分かりました。例えば、高校へ入ったら〇〇しようなど近い未来のことでも良いです。今日の阿部さんの話を参考にして、社会に対するイメージをふくらませていき、社会に貢献できるように、今から訓練していきたいです。

#### ▼大企業と小企業

Y・T

大企業と小企業の違いは、大企業は完全組織制で、自分の考えた事がなかなか通らない事に対して、小企業では自分の考えた事がすぐにやる事ができるというあまりしばられない制度なので、自分的には小企業の方が、やりたい事がすぐにできるのでいいと思います。でも、小企業には小企業なりに大変な事がたくさんあるし、相手の要望にちゃんと答えないといけないけど、やりがいのある仕事なので、とても良い仕事だと思いました。

#### ▼技術の進歩と僕の視点

M・Y

僕は今日の話を聞いて、この国の技術の発展について、今までよりも更に興味を持ちました。部活の関係上、このような物に関わる事は多いのですが、今日の話を聞いて、今までと違う視点で部活をやってみようと思いました。今回の話は、自分を変えるのにとっても重要な役割をはたしてくれると思ってしまうほど、貴重でありがたい物だったと思いました。

#### ▼「社長」という仕事

S・I

今日のお話を聞いて、自分は創造するということを考えてさせられました。一番驚いたのは、日東電機の社長になった時の話です。最初はただだんに、運が良くてなったのかと思っただけで、本当は「社長」というポストは責任が重い物を進んで務めに行くなんてとても驚きました。たった14人の社員しかいないくても、大企業が来ているという所までいけたのは阿部社長の技が

## 《公示》同窓会総会開催について

第 32 回総会を下記の要領にて開催いたします。同窓会会員(卒業生)は是非ともご出席をお願いします。

本年 7 月竣工の見違える様な母校の新校舎の話題など、総会後の“懇親会”では情報交換、今後の人生の糧となる交流をしましょう。先輩方・後輩方との利害のない親交も貴重です。

記

日時 2007 年 11 月 16 日(金) 午後 7 時 00 分より  
場所 渋谷・エクセルホテル東急 6 階プラネッツルーム  
議題

- 1 号議案 2006 年度(2006 年 10 月 1 日～2007 年 9 月 30 日)活動報告
- 2 号議案 2006 年度(2006 年 10 月 1 日～2007 年 9 月 30 日)決算報告
  - ①一般会計報告
  - ②名簿関係収支報告
  - ③第 31 回総会決算報告
  - ④繰越金内訳
  - ⑤会計監査報告
- 3 号議案 2007 年度(2007 年 10 月 1 日～2008 年 9 月 30 日)活動計画
- 4 号議案 2007 年度(2007 年 10 月 1 日～2008 年 9 月 30 日)予算案
- 5 号議案 その他

## 懇親会のご案内

総会終了後、同一場所において懇親会を開催いたします。週末の夜、仕事を離れ、懐かしい友や先生方とホテル自慢のフルコースとお酒を楽しみながらひとときを過ごしてはいかがでしょうか。お仕事の都合で総会に間に合わない方でも歓迎いたします。お互いに声を掛け合ってください。

日時 総会終了後(7 時 30 分開会予定)  
場所 総会と同じ場所(楽しい企画を楽しんでください)  
会費 巻頭ページ参照(飲み・食べ放題)

\*参加者をさらに増やしたいと願う私たち事務局の意向に是非ご協力ください。

あつてこそだと思いました。

### ▼想像・創造

Y・S

今回、阿部俊夫さんの話を聞いて、最初になぜ、ソニーという大企業に入らず、小企業に入りたいのかまったく解りませんでした。

しかし、阿部さんの話を聞いてみて、ほくも少し阿部さんの気持ちにわかりました。小企業のいい所は、大企業と違い自分の想像・創造が実際にいい作品を世間に出回せることができることです。しかし、多くの考えは、小企業は大企業と違い不景気になると倒産しや

すいのではないかと思つたのでは、大企業に入りたいです。

### ▼小企業だからできること

K・J

僕は、今回の講演を聞いて、阿部さんがなぜ小企業にこだわるのか分かり、そして、今までは大企

業が良いと思つていただけ自分も小企業が良いのだと思えるようになりました。やはり、自由な感じ自分で何事も思うようにできたり、それでも、個人個人の責任もある、自分がやることはしっかり責任を持ってなすとげるという感じになれるのはとても大事。上司の言うことにしづられず、自分で挑戦するのは自分を成長させるチャンスだと思ふ。

### ▼新しいものをすぐにつくることができる

K・K

社員千人規模の大企業は製品を思いつき、それを製品化するまでに係長、課長などと、何重の門をくぐらなければいけないが、人数の少ない小企業の会社は案が思い浮かべばすぐにその製作にとりかかることができる。しかし、それだけに何人もがその製作に関わっている大企業と違い、自分の責任が重くなる。それでも僕は阿部さんのように自分のやりたいことができる会社に勤めたいと思ふ。

## 我が家とムサコーの濃厚な関係

渡辺 正明(二十期・昭和四十八年卒)

私がムサコーに入学したのは今からちょうど40年前のことです。入学試験へ向かうバスの中から富士山が奇麗に見えたのを今でも鮮明に覚えています。

小学校の頃から天文少年であった私にとって、ムサコーに活発に活動している天文部があったのは実にラッキーでした。当時の天文部は月に1〜2回学校に泊まり込みでの夜間観測と夏休みの合宿が活動の中心で、本格的な天体観測を体験することができました。但し、中心となっていたのは流星の目視観測と月や惑星のスケッチで、ビジュアル系というか天体の姿を目に見える形で記録する事により関心があった私は、天体写真の道へと進んで行きました。

高1の夏に自宅で18cmの望遠鏡を購入し月や惑星の写真撮影を始め、この年の10月に撮影した月面写真を皮切りに高校大学を通して天文雑誌に約50回の入選を果たすことができました。

ムサコー在学中では、高2の夏休みにムサコーの屋上で撮影した月食写真が学校の名前入りで特別掲載されたのが記念碑的なものとなりま

した。

その天体写真も高2の夏を最後に封印し、大学受験へと突入して行くことになりました。少し遡りますが中3の終り頃、担任の水谷先生から「高校から優秀な外進生が100人入ってくるから全員席次が100番下がるぞ」と脅され、中学から高校へかけてかなり気合を入れて勉強しました。そうしたら高1の1学期の中間で在学中ただ1度だけ学年1番になってしまい、ちょうどその頃だったと思います。天文部顧問の向井先生から「東大の天文学教室を目指してみたらどうか」と言われたのが東大の天文を意識しはじめたきっかけでした。

当時、東大を受けるなどと言うと冗談と思われる「お前バカじゃないか」と笑われるような状態

## ピカピカに新築された母校で、お会いしましょう!

### 第49回「柏苑祭」

日時 平成19年11月3日(土)・4日(日)

場所 武蔵工業大学付属中・高等学校

新築校舎内『同窓会の部屋』

(小田急線成城学園前駅下車徒歩10分)

- 本校の歴史を展示(卒業アルバム・その他)
- 進学・入学相談コーナー
- 喫茶コーナー

上記同窓会企画の詳細は

同窓会事務局・清水(14期生) TEL. 03-3595-0058

今年も全面新築された校舎で懐かしい先生、諸先輩、意外な方と会いましょう。とてもモダンな空間、開放的な校舎、是非とも情報交換、歓談いたしましょう。生徒さんも展示も心機一転。定年退職された先生も集まっています。お楽しみに! 同窓会柏苑祭担当 清水(14期生)



態でしたが、敵を知り己を知らば何とやらで着々と攻略を進め首尾よく理科I類に合格することができました。確かムサコーで初めての現役合格だったと聞いています。

ムサコーから東大に行くかどうかというのは興味深いところだと思いますが、期待を裏切らず大いに苦労しました。まず天文学科に進むには進学振り分けを突破しなければなりません。更に、大学院に行かなければ天文学者にな

## 第13回 武蔵クラシック開催のご案内

平成18年7月に予定しました第13回武蔵クラシックは、実行委員会並びに諸般の都合で、止むなく中止させていただきました。ここに慎んでお詫び申し上げます。

今回は、平成19年11月初旬の実施ということで日程が迫っております。実行委員会からの過去の参加者へお誘いの連絡も致しますので是非、ご参加下さい。男子・女子の若手プロゴルファーに負けて入られません。母校の先生からも積極的に開催への打診を受けております。

開催予定日 平成19年11月4日(日) = 柏苑祭当日でもあります =

会 場 レイク相模カントリークラブ

募集人員 定員20名(5組) ご参加の意志のある方は下記まで



【同窓会懇親ゴルフ実行委 宮原 茂 (24期生)】 連絡先 03-3703-1541

ることはもちろん、研究を行うことすらできません。しかし、あの手この手で結局5年かかりましたが、何とか大学院にもぐりこむことができました。

大学院に入ってしまったらもうこっちのものです。ムサコー天文部以来の経験を生かして観測分野で力を発揮することができました。研究テーマは銀河の定量解析で、毎月新月の頃1週間木曽観測所に籠って105cmシュミット望遠鏡で銀河の写真撮影を行い、画像処理ソフトを開発してデータ解析を行っていました。研究成果としても後に海外の研究者の間で高い評価を受けるなど、国内施設のみで行った研究の割には世界的な水準に達することができたと思います。理学博士の学位取得後は大型望遠鏡建設プロジェクト(現在のすばる望遠鏡)にも参加し、主鏡の構造を決定するための計算という重要な役割を担当することもできました。

こうして本格的な天文学研究を行うことはできましたが、プロの天文学者になるには更に高いハードルがあります。しかるべき研究職に就かなければならないわけです。しかし、定員に限りがあるため極めて狭き門です。大学院修了後、天文台の研究員となっていました。ちょうど長男が生まれる頃に任期切れとなり、一応の成果をあげた天文学には終止符を打ち、人工知能技術等特色とする現在の会社へ就職することになりました。そして、現在は天文学研究での

経験も生かし検査用の画像処理ソフトの開発を行っています。新たな検査対象が出てくる度にアルゴリズムを考える必要があります。天文台で研究を行っていた頃よりもずっと頭を使うことが多く、充実した日々を送っています。

さて時は流れ、8年前に長男が、6年前に次男がムサコーへ入学しました。私が教わった先生方も何人か残っていて心強かったのですが、書道を教わった門先生が校長、体育を教わった前島先生が教頭、美術を教わった堤先生が副教頭と芸能系の先生方が牛耳っているのにはビックリしました。親子3人がお世話になったムサコーですが、最もムサコーライフを満喫していたのは家内かも知れません。PTAで山荘委員、広報委員、学年副委員長、文化委員長などを勤め、かなり引つ掻き回して迷惑をかけていたようですが、親しい友人もでき今でもコーラスサークルで時々ムサコーへ出向いています。

現在、長男は京大文学部、次男は慶応理工学部にて在学中です。今年3月の新校舎での次男の卒業で我が家とムサコーの直接の関りは終わりましたが、また20年後ぐらいに孫の代で再び濃厚に関ることになるかも知れません。



## 一期一会



鈴木 威一

(9期・昭和37年卒)

駆け抜けてきた人生、駿馬とは行かないが、駄馬なりに懸命に駆けた中で、好きになった言葉の一つが、“一期一会”。そして、私が60歳になったとき、仕事以外の事で世の中の役に立ちたいと思い始めたのが、一期一会の会である。我々熟年世代と20代の若者の交流の場であり、人生の達人から何かを得てもらいたいと言う趣旨で3ヶ月に1度東京の中心銀座で開催してきた。

思いつきのような経緯から考え、1年も続けば善しとしようと思ったのだが、この4月には、10回目の記念会を開催するまでになった。(この間に特別会を2回開催しているの、都合12回会開催したことになる。)

9回目まで多くの人生の達人に話をしてもらったが、特に珍しいのは、3人の講師は、外国人であった事かもしれない。アメリカ人、イギリス人、そしてタイ人に講師をお願いし、大変ユニークな話を聞かせていただき、とても盛り上がった。

わざわざ、私が貧乏なのを知っているの、3人とも自費で旅費を払って講演をしてくれた。(感謝、感謝である)

そんな訳で、会報に載せる価値のある興味有る話題も、幾つもあるが、今回は10日目をお願いした講師と、彼の話の少し述べてみたい。

第10回の講師として私がお願いしたのは、武蔵工大付属高校、武蔵工大と同窓だった服部健一氏であった。

彼は武蔵工大出身者では珍しく、エリート公務員として社会人生活を始めた。通産省に入省(当時)キャリアーとして、特許庁を経て、審査官、大臣官房、審判官と順調に出世街道を登って行ったが、40歳目前(年金受給資格取得目前でも有った)に退職して渡米、苦勞して学び直し、アメリカ弁理士資格、アメリカ弁護士資格、法学博士という、アメリカでも最高レベルの資格をとり、現在ではアメリカを代表するトップクラスの特許法律事務所のパートナーとして首都ワシントンDCで活躍されている。

日本の大手自動車メーカーと大手電気メー

カーの顧問弁護士もしておられる大物である。(多分現在アメリカで最も有名な日本人特許弁護士である)

彼とは学生時代に特に親しかったわけでは無いが、私がアメリカ半導体メーカーの日本法人社長を仰せつかった頃から、同じ悩みを共有する仲間として付き合いが再開し、彼の素晴らしい実行力と人間性に感心して、主に彼の来日の折りお付き合いをさせて頂いてきた。

私も40歳過ぎる頃から、海外で企業経営をするようになり、お互い武蔵工大付属の出身者にしては珍しいアメリカベースの企業経営者になったわけである。

彼の話は、私の要望を入れて、仕事の話は少なく「人生論」を、「生き方論」を話してもらった。

自分の仕事人生を若いときから80年と考え着々と手を打っている彼の人生論は、(日本のトップへ、そして世界のトップへ)若い人だけでなく、団塊の世代といわれるようなベテランのお方にも、大きな感動を与えた様であった。

言うまでも無いが、ガリガリの仕事人間ではなく、面倒見の良いテニスとゴルフも凄腕の人的にも立派な男である。

武蔵工大付属の卒業生にはいろいろな分野で活躍している人が居るが、日本の国の枠を超えて、世界で大活躍しているこんな先輩も居るということを知って欲しい。

彼の作った10歳ごとの有るべき姿を一言で表した表から少し抜き出してご紹介し、今回の私の一期一会紹介の駄文の纏めとしたい。

### 《心と体》

20代 好奇心、30代 決着、集中、40代 不惑、50代 風格、60代 達観

### 《全般》

20代 全てを模索、30代 全面に落ち着き、40代 全面に自信 50代 人間的ピーク 60代 人格者になれるか、70代 精進と運 皆さんは如何お考えだろうか。

ご挨拶が遅れましたが、今年三月を持ちまして付属中学・高等学校を退職致しました。在職中には、多くの方々にご支援ご協力を賜りましたことを心より感謝しお礼申し上げます。この度、付属の新校舎が落成致しましたが、旧校舎での生活の区切りが期せずして私自身の教員生活の区切りともなりました。

長い教員生活の間には、合宿や行事など含めて美術担当教師として、日々の新しい体験と交わりの中で多くの思い出があり、多くの快さとともに苦しい思い出も出されます。同じような付属の雰囲気ですが、時代と共に変化し、私自身も多くを学び共に変化して来たと思えます。

付属との関わりのスタートは、大学卒業の年、昭和39年東京オリンピックの年に当たりますが、三月に突如付属から手伝い要請の電話が入り、現在の工大工学部のある尾山台から、トラックの荷台に荷物と折り詰弁当一つで乗り込み、新校舎への引越しと片付けからです。

成城に完成した校舎は、理科実験を重視した校舎づくりの当時のモデル校で、私の卒業した高校と大学が当時は古い板張り校舎で、歩くたびにギシギシと軋む状態であったので、真新しい校舎に感激したのを覚えています。

その頃の生徒は、時代的な背景もあつたかと思いますが、のんびりしつつもタフで骨太であつたという印象があります。柏苑祭での野外大看板をひとり数日かけて仕上げた創造力と馬力の持ち主もいれば、合宿引率では、度肝を抜

## 付属での思いで

堤 清

かされたこともありました。今となれば、当時の交わりには印象深いものが多々あります。先日、そうした面々に久しぶりに会い、いつても近々定年とのことでしたが、夕食を共にし、ややアナログ的な昔話に花が咲き楽しい一時を過ごしました。

「美術は、生活そのもの」と授業でよく言ってきたが、時代が進むにつれ生活を取り巻く環境や生活スタイルが変化し、少子化が進み、受験体制が云々され、受験競争が激化される中で、生活での「手づくり」感覚は徐々に薄れ、デザインや発想はよしとしても、具体的な「もの」

へ具現化する挑戦が、授業の中で益々難しいものとなつて来ているのが現状であり、残念なところだ。

比較的体験や主体性を重視する行事の多い付属であっても、毎年何人かの美大進学者もおりましたが、受験科目とは切り離されたところでの授業感覚と、授業が「楽しめるもので無ければ」とテーマ選びにも工夫するものの、ペースと成る技術面や体験の乏しさ等も手伝って、手が付かないとか、継続的な作業での集中を欠くなど、美術を楽しむとは別の厳しさが徐々に増して来ておりました。

しかし、こうした状況の中で、美術大学時代からの良き相棒と共に研修し、共に相談しながら授業を進められたことが幸いであつたと思えます。そんな相棒も同時に定年を迎えました。教科以外の担当部署として、生徒会指導部や生活指導部のまとめ役として担当した時期も長く、中でも全国的に学校が荒れた時代に、必要な生活ルールとして「すべきこと」は、することの実践が、「むさこー」的ラフさを伴う中で、なかなか実施し難く、毎日多めに悩み悩まされたこともありま。

しかし、そうしたいろいろな思いでの残る校舎も、老朽化と共に、新しい時代の学校に對する要求に、施設として対応できない状況に至

り、当初の一  
部建替  
え案か  
ら全面建替  
えに変更  
し、教頭と  
して最後に  
新校舎建築  
をまとめる  
ことが出来  
たことがと  
ても幸せに  
思えます。  
新校舎建  
築に当たっ



ては、美術教科を担当していたことで、建築に関する多少の知識と、身についた作品を作る上での姿勢が多いに役に立ったと言えます。

美術作品を作る場合は、キャンバスの端から順に総てを描き尽くすというやり方はしません。全体像を想定し、全体のバランスの上から個を生かし絵画を組み立てる姿勢をとります。美術に関わる中で、全体との関係を考えながら物事を進める捉え方が日常化していたことが、行事づくりや、体験学習や学校ビジョンづくりなど学校生活の取り組みに大きく役立ったといえます。

新校舎づくりでは、必要項目を拾い出しました。全体構想として、10数年の取り組み経過のある学校改革委員会を軸にして、学校全体でまとめた付属の将来像(ビジョン)。施設では、旧校舎でのマイナス面の検討と、各教科の要望、更に将来に向けて必要な施設。システムとして、従来欠けていた個人情報管理、日常のセキュリティ、災害に対する安全性、経済性など。これらを最終的には「学校づくりコンセプト」として7つの項目にしてまとめ、学校の建築デザイン化を依頼した経過があります。

教科や各分掌など各方面からの要望も多岐にわたり厳しいものがありまして、敷地制限や資金制限の中で窓口として調整に苦慮したことは事実ですが、結果的に、各方面から他の中学校高に類の無い新しい学校施設としての評価や、退職後の竣工式で頂いた学校からの感謝状などで救われた思いがあります。2年近くの新校舎建築の取り組みで、現時点では、何とか目的を達

し得たかと思われます。

これから新しい環境のもとで新しい付属がつけられることと思いますが、良くも有れ悪くも

## 我等二期生 頑張っています

菅沼 進二(二期・昭和三十年卒)

私たち五人「今村、宇津木(旧姓溝口)、今野、菅沼、広田は昭和三十年卒業するところから何時とはなしに、仲良しグループが結成されてゆきました。そして卒業後は毎年、何回か渋谷で集い飲み会を開いて近況報告をしていました。そのうち一人、二人と結婚話もちあがり、「フイアンセ」が決まるとその都度紹介しあいました。やがて子供が生まれると年一、二回よみうりランド、相模湖ピクニックランド、群馬サファリパークなどの遊園地やテーマパークに出掛けていました。昨今は、子供も成長し独立してゆきましたので、春は独身時代と同じように男性だけで旅をしたりしています。そして秋は夫婦で旅をしています。古希を迎えた今年の秋は、十一月七日に新潟の瀬波温泉に行ってきました。生憎の天候でしたが、十人乗りのワンボックスカーを二人の仲間に交代で運転してもらい、見事八百八キロを走破して楽しんで来ました。これからも体の動くかぎり集い飲んだり、旅をしたいと思っています。

有れ、昔の「むさこー」スタイルから、現在の状況にマッチした、将来に向けて力強い新しい付属が出来ていくことを期待している次第です。



菅沼氏夫人

今野氏夫人

広田氏

広田氏夫人

今野氏夫人

今野氏

今村氏

菅沼氏

宇津木氏夫人

宇津木氏

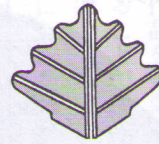


# 新校舎落成披露記念式典

6月30日に母校の新校舎の落成記念式典が開催された。最新の設備を完備した校舎は快適極まりない状況である。新校舎の施設設備7つの「学校づくりのコンセプト」では、6クラス・6学年一貫体制・進学校としての施設設置をはじめ、ゆとりの生活施設の充実が記されている。

1964年より学びやとして馴染み深い旧校舎の面影はすべて払拭され、最新の校舎には21世紀の息吹が感じられた。多目的ホール「アルママタホール」と名付けられたことは感慨である。同窓会また同窓生としては、五十嵐校長に拜命されたことに感謝する次第である。

また吹奏楽部による校歌吹奏はアルママタホールに出席した全ての参加者を感じ動の渦に収め、大喝采を浴びた。同窓生全てが今でも懐かしく思う校歌は永遠に存在してほしいと願っている。神田清人(二十一期卒)



招待試合(アメリカンフットボール)

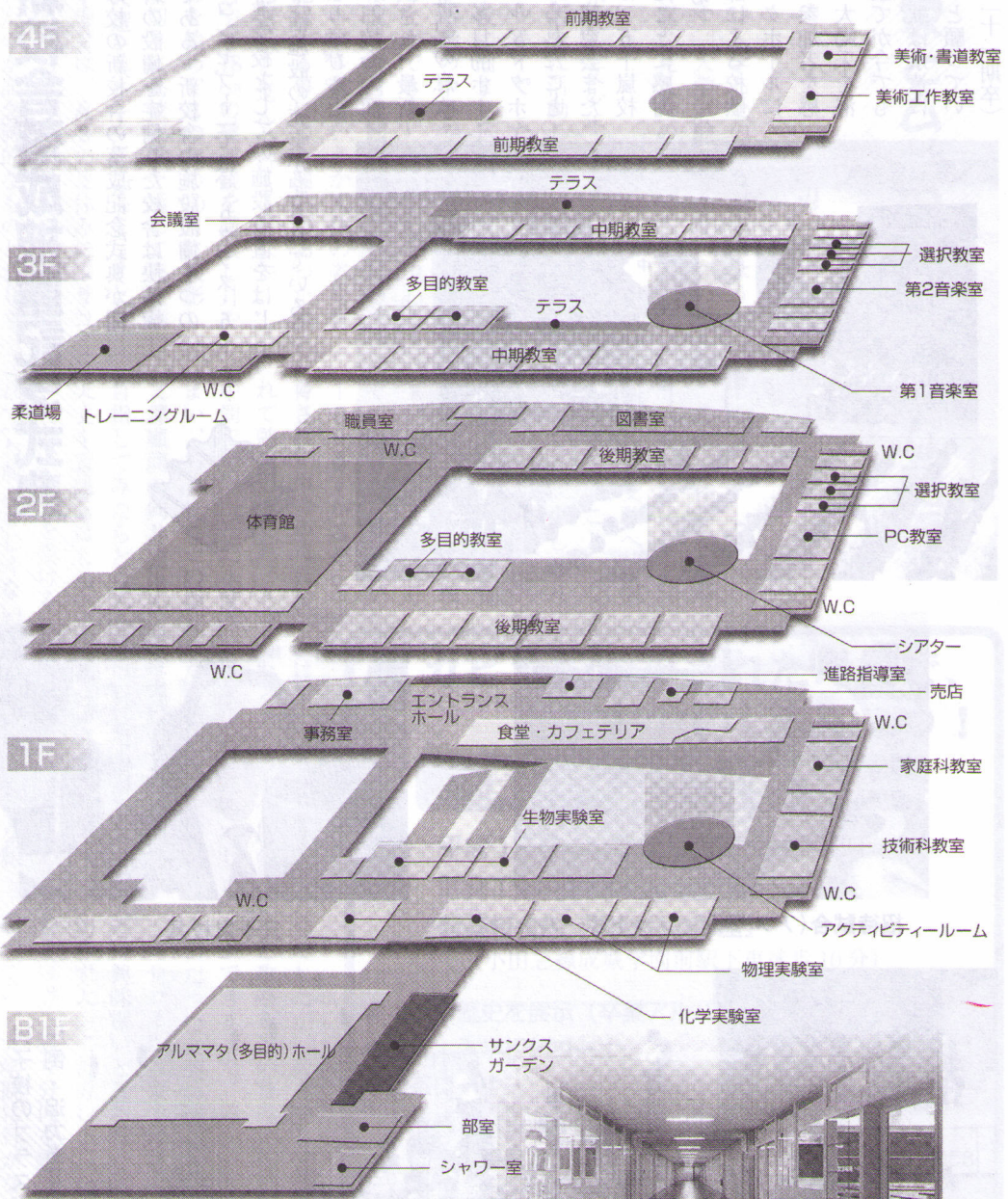


五十嵐校長

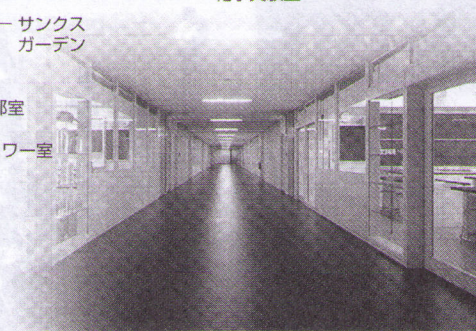


男子校のブラスバンドの力強さに  
圧倒・迫力ありました。

## 新校舎階層図



理科実験の充実を図るため生物実験室・化学実験室・物理実験室の施設設備を充実させました。



【投稿】

# 住民運動に参加して得られたもの

PART.V

行政の責任者は特定できない国なのか！

十四期 清水茂

十年間に渡り「住民運動」を通じてさらには「個人」を含めて行政訴訟を提起してきた小生として摩訶不思議に思うことがある。先づ、税金に対する行政不服審査は相手（被告）は行政である。例えれば空に浮かぶ「雲」の様なものである。この行政が被告となった事件の場合には、裁判事体を受けて立つ被告は先ず持って私たちから徴収した浄財である。「税金」を軍資金として勝負に挑んでくるのです。特に小生並びに市民団体（オンブズマンを含む）が現在提起している事件では、「税金」に対する不服訴訟である。さらにこの例では納税者である個人の税金（固定資産税等）内容は前号までの「柏」を参照していただきたい。不服に税務署並びに公権力（自治体を含む）が公的費用「税金」にて裁判訴訟費用を賄うことが合点がいかないのである。なぜなら市民である提訴する人（原告）は、純然たる労働等に対する対価（個人の所得である財布）からの出費なのであり生計維持のための資金である。したがって当局である行政は提訴され受理された事件が提訴された時点から相当ヤバイと思つたとしても軍資金の安心感（青空天井）から必ず受けて立つのである。

行政は組織として特に大きな「公権力」を授かつているのであるが、これら行政府は、それぞれ税制度を基本とするがこれらの事案は政策として議会で審議了承されたうえで法律化し、法律

に従って施行される訳である。最近、一般の国民が頼みもしない大規模開発やら公共事業やら大企業をバックとする一部の政党なりが政治献金欲しさと議会での議員数の力で私たちの税金を惜しみなく費やしている。ただし、税金に関しては少なからず財務省の局長通達によって中身がコロコロ変更される「通達行政」。こんなことが白昼堂々まかり通っている。市民生活に多大な不利益をもたらすことになることが多々ある。そこには行政府の人間が影に介在しているからである。例えば上は総理大臣・霞ヶ関官僚、下は自治体の長や課長・係長・窓口担当者等である。これらの人物が「縦割り」さらには「上位下達」なりで物事を処理することは、これらの不条理の原因である。「悪事」の部分についても権限が下部署へと委譲されたまま引き継がれることが多々あり、少なからず行政府の一員でもある職員個人も不満を持つこととなる。これが内部告発の要因ともなる。ましてやシリーズで掲載している投稿の例の様に行政訴訟を提起すると、五年も十年も「恣意的」に裁判に於ける審理を被告側の都合で準備書面の提出期限をも遅らせる如くに引き延ばすことは、どう考えても許されるものではないのである。多忙を極めている庶民には「不利益」そのものなのだ。ましてや、文頭にも申し上げた様にこれら裁判の被告が私たちの「税金」を使って堂々と争っていることは、税金のさらなる無駄遣いとなつていく。しかるに行政訴訟においては、私たち庶民に対して判断ミスにより不利益をもたらした個人そのものを特定するべきである。この個人とは複数であるかもしれない。「権力が訴訟を受理すれば恐くない」は提訴人（原告）に不利益を持たせ実には困るのである。言い換えれば「行政訴訟は無

駄な労力である」か？いみじくも社会保険庁の年金ネコババ事件が表面化しましたが、これらは私たちの誰が考えてもこれらの事件の報道を聞く見ないでしようか。「組織犯罪」の何ものでもないのではないでしようか。公務員（公僕）としての自覚もへつたくれも無いのであるが、民営化することで公務員法という厳しい処分から一目散に逃げ込もうとは全く許し難い事実である。彼等は私たち国民が「熱しやすく覚めやすい」のを知り尽くしたただただ馬鹿にしているのである。私たちの税金を歳費している政治家としての役目も果さず国民からの借金（国債）までして陳情の交通整理よろしく公共事業と称して支持票獲得のために散播き一部を懐に隠し、さらに利権をも確保する。官僚は官僚で天下りの為に大企業と結びつきさらに独立行政法人なる隠れ蓑をも確保している。全くのやりたい放題である。今はやりの「第三者機関」として公平でない委員の集まりなのでは？と疑いたくなる。恥ということを感じないのだろうか。マスメディアもマスメディアで反吐が出る程毒飯頭を食わされ、真つ当な批判もできないとききている。しかしてこの国さらにこの国の国民は真つ当な先進民主国から強いては世界から「品格」を問われることとなつたのである。一分でも一秒でも早く、私たち国民が「身から出た錆」とはいうものの行動を通して早く立て直すことが肝要である。それこそ自覚を持って『恥ずかしい国・日本』の汚名を返上させようではありませんか。書き記しているうちに「反吐」が出そうになりましたので誌面の関係上、この辺で終わります。お後が宜しい様で。（お詫び） 裁判の経過を主に記すつもりでありましたが、現在を含めて今後の経過は、後日改めて報告させていただきます。

# 理事会報告

同窓会事務局長 神田清人(二十一期卒)

2ヶ月に一度開催している理事会では、定期的な報告に加えて校名変更の話題で意見が交換されてきた。そもそも武蔵工業大学の校名変更に関しては歴史がある。およそ10年前に凍結された議論がなされてきたが、今回提起された原案に対して、大学の同窓会である工業会が異議を唱えた。高校同窓会としてはその異議に対して賛成も反対もする立場ではないとの認識ではあるが、正確な情報を得る必要があるため、6月7日の理事会には五十嵐校長先生にご出席いただいた。校長先生からの報告により、大学側の意向は把握したものの基本的には同窓会理事会としては状況を静観することになった。その後の状況としては、大学側では校名変更委員会を制定し、各方面からの意見を集約し来年度での決定を目指す方向性が示された。同窓会としては引き続き状況を確認しつつ報告していきたい。



第49回柏苑祭ポスター

## 編集後記

今回は、阿部会長の母校での講演「機械設計の楽しさ」、天文学博士の渡辺先生のお話(天文学を学ぶ為に当時ムサ高から東大へ)、一期一会の鈴木さんによる服部さんのアメリカでの活躍、退官された堤前教頭の付属での想い出、と各方面で活躍されている先輩方の記事を載せることが出来たので、バラエティーに富んで面白い号になったと思います。

\* \*  
各記事を読んでいると、それぞれの方々、自分の考え方や理念をきちんと持って生きていっているんだと感じられて良いなと思いました。

\* \*  
先の参議院選挙の結果を観てみると、殆ど衝動的に動かされているのでは?と危惧してしまいます。政治家は昔から学生時代弁論部に所属していたのですが、最近では弁論部出身ではなくなつたのでボロが表面に出てきてしまつたというの、穿った見解なのでしょう?こんな状態で、陪審院制度が導入されて裁判になつたら、真理の追求とは裏腹に検事対弁護人の対決で人の情に如何にうまく訴えた方が勝つてしまふのでは?と思ってしまうのです。各々がきちんとした視点で熟慮してほしいところです。そういう意味では、学校では、自分の意見をきちんと表現したり、物事をあらゆる視点で検証したりする能力を培えるようにして頂きたいなと思う次第です。歴史等の授業では、各時代の時代背景と状況の中で、誰が何の為に何を

どの様になったのかをきちんと考察して欲しいなども願います。

\* \*  
最近、「大江戸版好色男のファルスタップ」というオペラを観に行ったのですが、ヴェルディ最後のオペラ「ファルスタップ」を日本的解釈で監修されたもので、出演者は、日本、中国、オーストラリア、さらに西欧からの人達で、江戸時代の舞台背景で衣装も着物姿で公演されました。日本人監督なので日本風にアレンジしましたが、大変楽しく観賞できました。日本人なら日本の文化をきちんと紹介出来る人になつて欲しいなと思います。国際化と云つて外国語が話せるだけでは、相手からの理解を得られないのではと思うのです。自分の国の文化を紹介できて、そして、自分の意見をきちんと伝えることが出来なければと思うのです。最近、中国で日中のお祭りの紹介がありました。中国でも歓迎され好評だったようです。文化交流大いに結構。そうしたイベントを通じてお互いの理解も深まっていくなさうし、色々な諸問題も解決されていくのだと思います。誰も好んで殺し合の戦争に参加なんてしたくないはず。こうした文化交流なら、お互いに楽しく参加できて相互理解に貢献するのではと思います。

安藤 友二(二十五期生)